

にしじ

SEPT. 2008 Vol. 35



8月11日（月）に須賀連ちびっこ隊が高知医療センターの憩いの広場にてよさこい踊りを披露してくれました。

特集：高知医療センター外科グループ手術症例検討会

- 第17回高知医療センター職員による学会出張報告
（第62回日本食道学会 in 東京 副院長・消化器外科 谷木利勝）
- 地域医療連携病院のご紹介（医療法人如泉会 リハビリテーション病院すこやかな杜）
- 高知医療センター イベント情報

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

第7回 高知医療センター外科グループ手術症例検討会

私たちは、登録医の先生方から当院外科グループ（消化器外科、一般外科、乳腺内分泌外科、移植外科）、消化器科、放射線科などにご紹介いただきました手術症例について、当院の「くろしおホール」にて、年に数回の外科グループ手術症例検討会を行っています。

去る7月8日（火）に開催されました第7回外科グループ手術症例検討会には、登録医の先生方からは13名、院内からは23名の合計36名に参加していただき、5例の症例を報告させていただきました。私たちは、ご紹介いただいた症例には、診療情報提供書で詳しい報告を行っています。

この外科グループ手術症例検討会で、検討症例のご希望がありましたら、できるだけ取り上げるようにしますのでお知らせください。また、開催曜日や時間帯等、ご意見・ご希望もお寄せください。今後とも、先生方の多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。
（文責：消化器外科・地域医療センター長 西岡豊）

症例1：腸間膜腫瘍の術前診断で、開腹生検を施行した症例でした。生検で診断され、ステロイド内服で軽快した腸間膜炎症性腫瘍の症例でした。

図1：シンチグラムと腹部CT

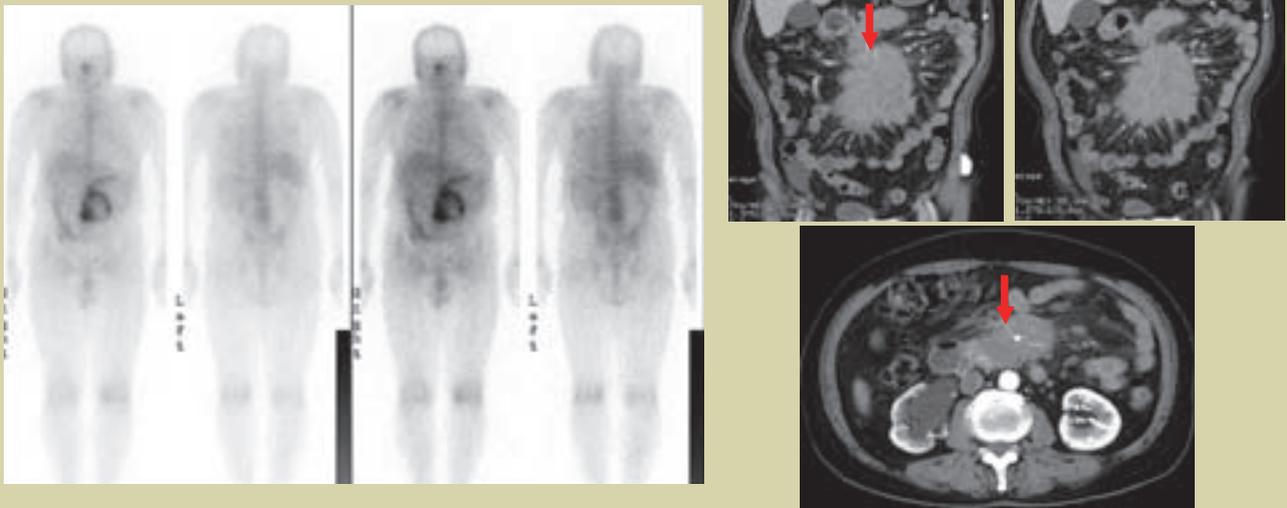
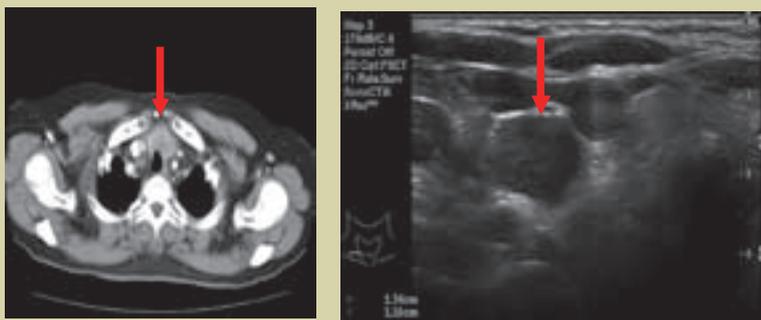


図2：ステロイド開始後の腹部CT



症例2：甲状腺癌の術前診断で、甲状腺亜全摘術＋リンパ節郭清＋無名静脈・左反回神経合併切除を施行した症例でした。術後病理検査にて、甲状腺 CASTLE と診断された稀な症例でした。

図1：頸部CTと頸部エコー



考察：甲状腺 CASTLE

- ・ Carcinoma showing thymus-like elements
- ・ 多くは甲状腺下極に発生する。
- ・ 甲状腺原発 CASTLE は甲状腺や頸部軟部組織より発生する稀な腫瘍。
- ・ 扁平上皮癌、未分化癌との鑑別が必要、それらと比較し予後は良好である。
- ・ 異所性胸腺組織または胎生期胸腺遺残組織を発生母地とする。
- ・ 免疫組織学的に CD5 が陽性を呈する。
- ・ リンパ節転移と周囲臓器浸潤が予後不良因子。
- ・ 治療は根治的切除＋放射線治療。

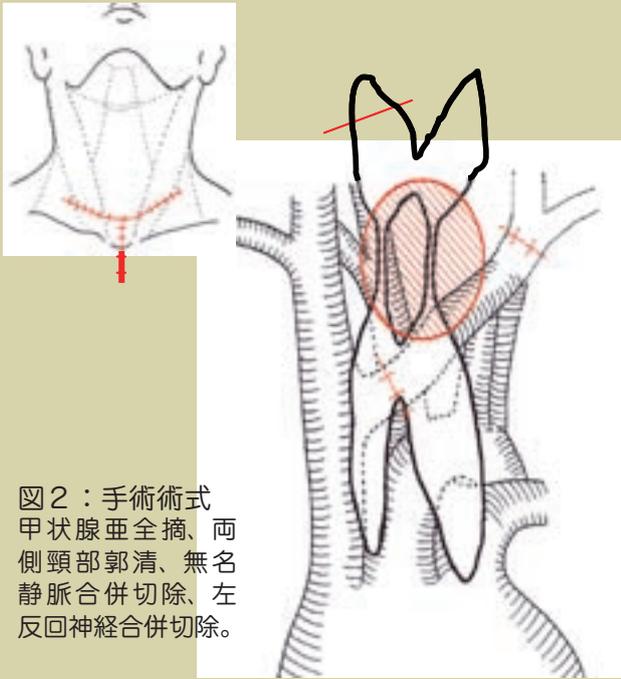
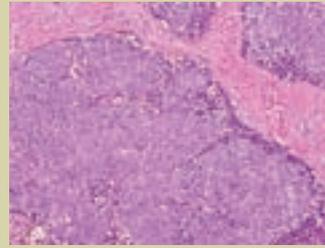


図2：手術術式
甲状腺全摘、両側頸部郭清、無名静脈合併切除、左反回神経合併切除。

図3：病理組織学的検査



HE染色強拡大(×40)

大小の島状・索状構造を示して増殖する腫瘍細胞と、その周囲の緻密な線維性結合織より成る幅の広い間質。

免疫染色

	CD5(+)
Thyroggbu lin(-)	TTF-1(-)



症例3：上部胆管癌切除1年1ヶ月後に切除した異時性下部胆管癌の症例でした。初回手術時の画像の読影が議論となりました。

図1：初回手術（肝外胆管切除、胆管空腸吻合（左3穴、右4穴）

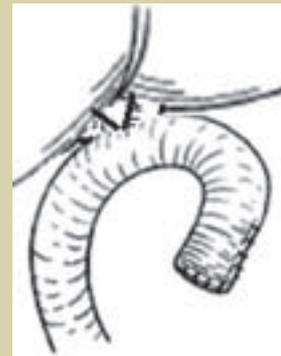
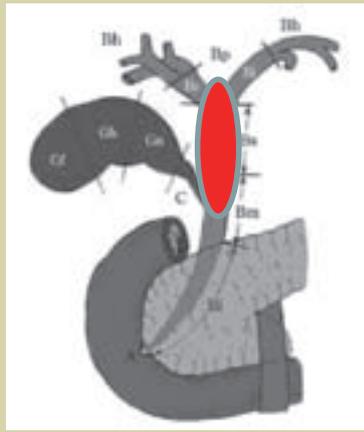
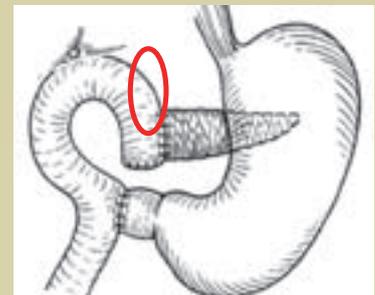


図2：ERCP検査所見
十二指腸主乳頭切開部口側に乳頭状隆起を認める。
胆道鏡観察では胆管内に赤色調の villous な腫瘍を認める。
胆管造影では内部に腫瘍と思われる16.9×8.2mmの陰影欠損あり、術後のため下部胆管のみ造影される。



図3：今回手術（幽門輪温存脾頭十二指腸切除術 PPPD-II）胆管空腸吻合部から空腸盲端までの間に脾空腸吻合を行った。



症例 4：胃癌で、ESD後に幽門側胃切除術を追加した症例でした。癌遺残やリンパ節転移は認めませんでした。当院におけるESD後胃切除症例（N=15）の検討も行いました。

図 1：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）



図 2：ESD 切除標本

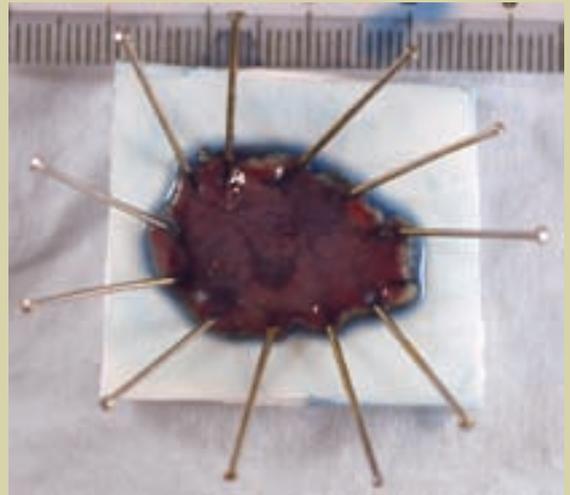
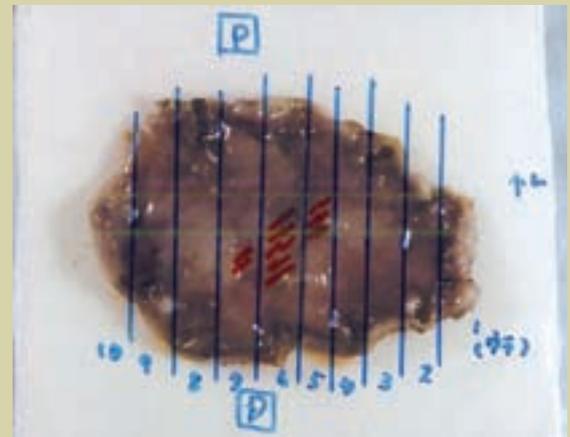
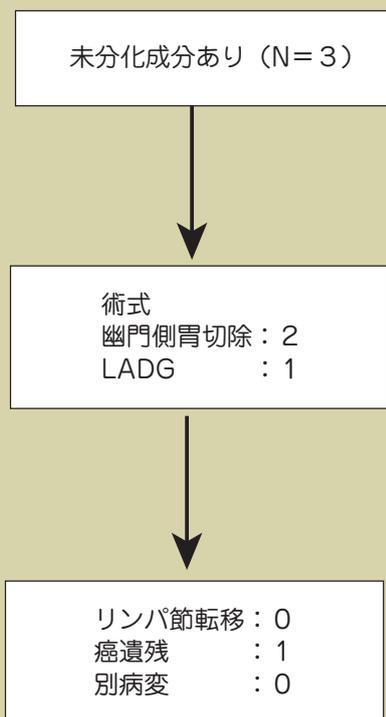


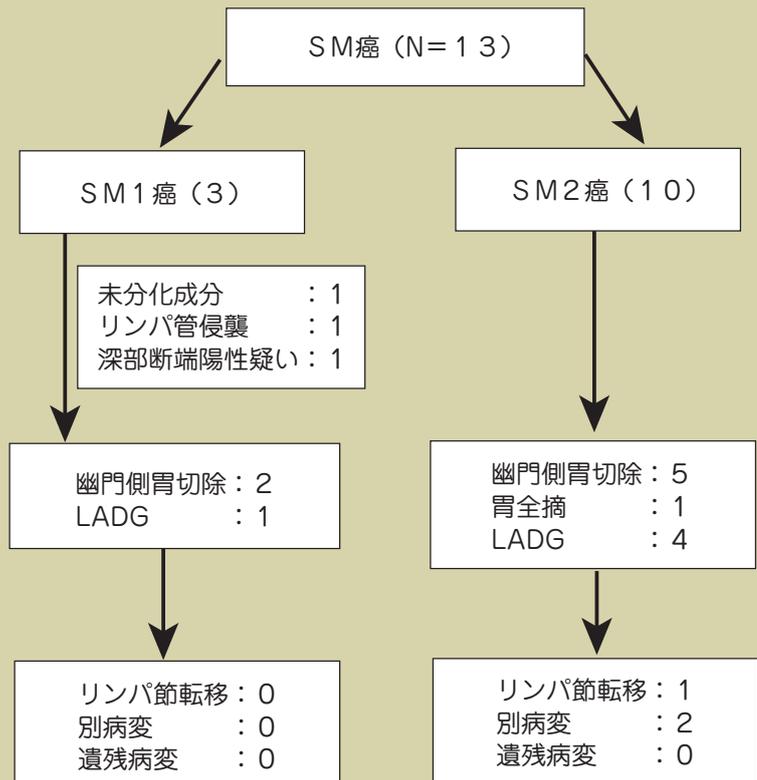
図 3：胃切除標本



追加切除理由と結果（1）

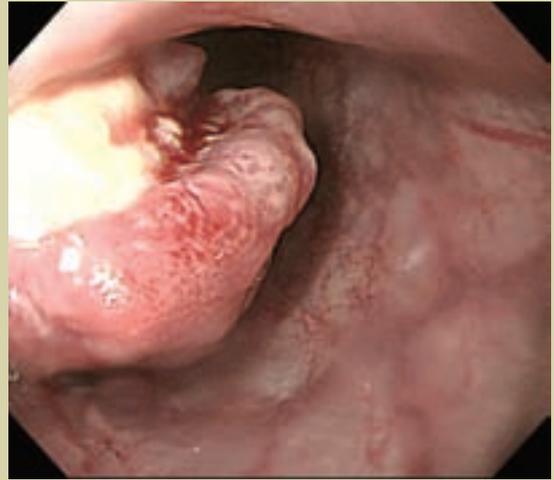
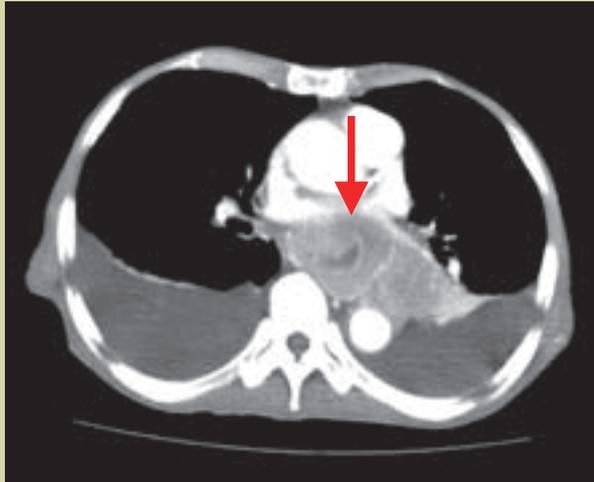


追加切除理由と結果（2）



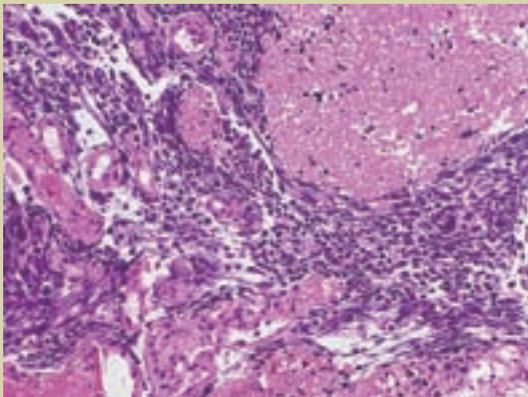
症例 5：稀な食道小細胞癌の症例で、急激な転帰をとった手術未施行の症例でした。食道小細胞癌の文献的考察も併せて行いました。

図 1：造影 CT と上部消化管内視鏡検査

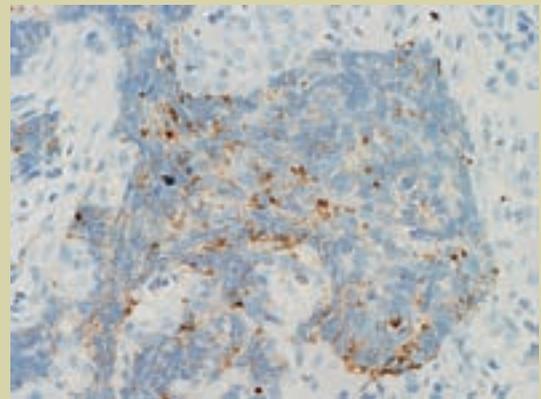


27 cm 10-2 時方向に 3 型腫瘍あり。狭窄のためスコープ通過せず。

図 2：病理組織学的検査



HE 染色強拡大像 (×20)
変性壊死を伴う腫瘍組織。腫瘍細胞はクロマチンの増量の著しい小型類円形核と乏しい細胞質からなり、充実性増殖を示している。



生検組織の免疫染色強拡大像 (×40)
クロモグラニン A 陽性

考察：食道小細胞癌

疫学 1952 年、Mckeown が初めて報告（肺燕麦細胞癌 oat cell carcinoma 類似）。

現在までに 200 余例が報告。

食道悪性腫瘍中 0.4～7.6%、男女比 3.4：1 平均年齢 64.4 歳。

ほとんどが胸部中部と胸部下部食道。食道癌取り扱い規約では未分化癌に分類されている。

発生 扁平上皮癌、腺癌、小細胞癌共通の前駆細胞である未熟幹細胞由来と言われている。粘膜下腫瘍様に発育することが多い。

症状 嚥下困難、体重減少。胸部違和感、前胸部痛、嘔声など。

肉眼像 初期には上皮下あるいは粘膜下増殖を主とする。充実性圧排性増殖。増殖が進むと隆起の頂上を中心に腫瘍が露出。中心陥凹を形成して、潰瘍浸潤型の形態をとることが多い。

治療 ①手術 ②化学療法、放射線療法 ③集学的治療

予後 国内外 183 症例を検討した報告によると、5 年生存率 9%、50% 生存期間 6 ヶ月。
3 年生存率 ①0%（手術） ②9%（化学療法、放射線療法） ③34%（集学的治療）
50% 生存期間 ①3 ヶ月（手術） ②7 ヶ月（化学療法、放射線療法） ③15 ヶ月（集学的治療）
進行癌で発見される事が多く、診断時に遠隔リンパ節転移や遠隔転移（肝・脳・骨、胸膜など）を認めるものがほとんど。

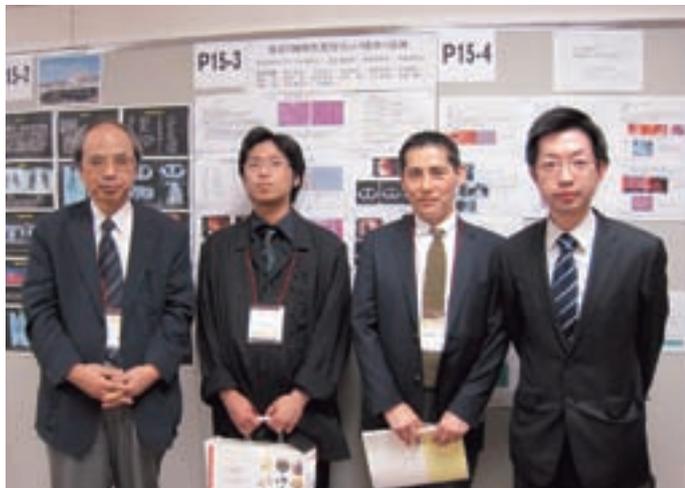
第17回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第62回日本食道学会 in 東京

平成20年6月21日（土）～22日（日）

副院長・消化器外科 谷木利勝



（左から谷木利勝副院長、西村公男医師、澁谷祐一医師、後藤正和医師）

今年の日本食道学会は平成20年6月21日（土）～22日（日）の両日、東京の都市センターホテルで開催されました。私は5月初旬に学会で発表することを決め、高知～東京間の航空券付2泊パック旅行を申し込みました。早く申し込んだためか、ホテルは会場の都市センターホテルを取ることができました。

6月20日の最終便の飛行機で東京に行き、1人で夕食を済ませてホテルに着くと、午後10時になっていました。ホテルは麴町の便利な場所にあり、有名な赤坂プリンスホテルやホテルニューオータニの近くでした。

6月21日（土）は8時30分から昼まで、術前化学療法のシンポジウムを聴きました。化学療法に関しては食道癌班会議に関したものがほとんどで、新鮮味に欠けましたが、これからは全体として術前化学療法が主流になると予測される内容でした。

夕方にはポスターの発表があり、掲載の写真は、私のポスターの前に並んだ後藤正和医師、西村公男医師、澁谷祐一医師の面々です。私は食道悪性リンパ腫の著効例を、後藤正和医師は特発性食道破裂手術治療症例を、西村公男医師は食道類基底細胞癌の手術症例を、澁谷祐一医師は気管に接した大きな食道癌が術前化学療法により縮小し、手術が可能になった症例を発表しました。

午後は国際セミナーで、英語での教育講演でした。ミシガン大学のアップルマン教授が、バレット食道に関する

日本と欧米の見解の相違について説明しました。とくに印象に残ったのは消化管粘膜癌の診断についてです。日本では早期癌と診断しているのに対し、欧米では癌ではなく高度異型と診断し、粘膜癌のうち浸潤傾向があるもののみを癌とするという違いがあり、イタリアのベニスで双方が集まって研究会を開催し、お互いが歩み寄れる基準を作成したのですが、誰も使用していないとのことでした。

夜は全員懇親会で、私は情報収集のためにも毎年参加するようにしているのですが、今回は別に私用があり見送りました。

6月22日（日）は朝から夕方まで食道基底細胞癌・食道悪性黒色腫・食道癌肉腫・食道小細胞癌という、食道癌の中では珍しい4種類の癌の、最近10年間の全国集計を基にしたシンポジウムがありました。

今回の学会担当の会長が病理学者であったので、病理学的な演題になったと思われます。近くこのシンポジウムの内容は論文にされるようで、論文を手にする日を心待ちにしています。

食道学会は以前の食道疾患研究会の時代を含め、1981年からほぼ毎回参加しています。その当時は食道癌手術で世界的に有名な中山恒明教授（当時の研究会の会長）の話が毎回学会の最後にあり、食道癌治療開拓のエピソードを聞けるのが楽しみでした。例えば、中山教授の教室に全国から多数の食道癌手術希望患者が集まっていた時のこと---「手術の順番を待つ間に放射線治療をしていて、この治療自体は良かったのだが、当時の放射線治療装置は性能が良なくて、治療の音がバリバリと大きく、皮膚まで焼けていた」等です。

食道癌班会議出席のため資料調査をしたところ、高知医療センターにおける最近4ヶ月間の食道癌新患者数は25人でした。腫瘍内科、消化器科、消化器外科、放射線科、耳鼻咽喉科、その他の関係科と協力して集学的治療をしています。今後とも学会には積極的に参加して、患者さんの治療にフィードバックするつもりです。



医療法人如泉会 リハビリテーション病院すこやかな杜

〒781-0311 高知市春野町芳原字北東原 1316-1
電話：088 (837) 2345 FAX：088 (837) 2227
URL：http://www1.ocn.ne.jp/~sukoyaka/

(診療科)

リハビリテーション科、脳神経外科、内科、整形外科、小児科
(協力病院・施設)

内田脳神経外科、もみのき病院、介護老人保健施設ピアハウス
高知、総合福祉施設ヘリオス、ケアハウスあじさいの里



左より、総看護師長の池つた江さん、地域連携室の公文理賀室長、内田泰史理事長、吉岡孝夫事務長

医療法人如泉会リハビリテーション病院すこやかな杜は、平成19年12月、「人と自然にやさしい木造の病院づくり」をテーマに春野町に開院しました。病床数は60床(回復期リハ病棟)です。小児科は外来のみの診療となっていますが、幼小児の発達障害のリハビリに対しても専門医が診療、指導をしており、他の診療科においても専門医による診療が行われています。病院の敷地内は木造建築で、バリアフリーの場所だけでなく段差や坂道などもあり、より実生活に近い状態でリハビリに取り組みめるような環境となっています。また、患者さんがすすんで散歩をしたくなるような環境であり、草木や花が植えられ、池にはメダカが泳いでいます。

今回は内田泰史理事長、吉岡孝夫事務長、地域連携室の公文理賀室長、総看護師長の池つた江さんにお話を伺いました。

Q：まず、病院の建物が木造ですごく優しい感じがしますが、工夫された点などをお聞かせください。

A：60床全て回復期リハビリテーション病棟です。木造は人にやさしく体に良いと言いますので、せめて病気をしたときは健康に良い建物で過ごしてほしいと思います。また、木造は丈夫で長持ちをし、湿気を吸収してくれますのでエアコンもあまり使用しなくても良いです。高知城と同じ柱の梁を使用し、接着剤は使用していませんので人に優しい建物になっています。



Q：リハビリの環境においても、建物が工夫されているそうですね。

A：普通は病室からリハビリ室へ移動するのに、エレベーターに乗って行ったり、車いすでリハビリ室まで行ったりとあまり歩きません。この病院は平屋もしくは二階建てですので、病室からリハビリ室まで行って帰ってくるのもリハビリの一つと考えています。また南病棟は、日々の動

作を訓練するためにわざと段差をつけています。病院にいたる間に段差の訓練ができるようになるので、自宅に戻ったときに戸惑わなくて済むと思います。急性期の病院を選ぶときは、家の近くではなく、どんな医療をしてもらえるかという内容で選びますが、本来、回復期病院を選ぶ際も同じように、どこまで回復をして、回復をした後、再発しないためにはどのようなリハビリをしていくか、どういう風に生活習慣を整えるかが大事になってきます。ですので、家の近くではなく、良いリハビリを提供してくれる病院を選ぶことが大切になって

くると思います。



Q：屋外には馬(ポニー)やヤギがいて、病院に動物がいるのは珍しいのではないかと思います。

A：普段歩いてない方が、病室から庭にでて花を見に行こうかなとか、池を見に行こうかなとか、馬を見に行こうかなと歩くようになります。

小児リハビリにも力を入れており、

自閉症や発達障害の子供の言語訓練などを行っています。ポニーやヤギを見に来たついでにリハビリをしてみようかなと、子供が病院にいてみようかなという気をおこさせるために、自然や動物は有効だと思います。発達障害の子供は周りから抑圧されていますが、そのような子供がポニーに乗ると心を開いて良い方向にむかったりします。自閉症の子供や認知症の患者さんは落ち着きがなかったりしますが、ここの施設ではおとなしく診察を受けています。木の雰囲気为患者さんをリラックスさせていると思います。

Q：リハビリのスタッフは何人いらっしゃいますか？

A：作業療法士(OT)15名、理学療法士(PT)15名、言語聴覚士(ST)10名の合計40名です。退院前訪問と退院後2週間の時点で週2、3回の家庭訪問を実施してご家族と患者さんのフォローをしています。実際の生活で困ったところのチェックをし、対策を立てるまで丁寧にサポートしています。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございました。



高知医療センター イベント情報

日	曜	9月～
3	水	看護局研修会 内容：「外来に通院するがん患者の看護倫理」 講師：高知医療センター がん看護専門看護師 池田久乃氏 場所：高知医療センター 1階 研修室 1, 2 時間：18:00～19:30 対象：看護職員 お問い合わせ：高知医療センター 看護局
11	木	研修セミナー(★) 場所：高知医療センター 2階 くろしおホール 時間：17:30～(予定) お問い合わせ：高知医療センター 呼吸器・アレルギー科 土居裕幸
12	金	糖尿病地域医療連携フォーラム 内容：「第5次医療制度改革と糖尿病地域医療連携～糖尿病地域医療連携パスへのみちのり～」 講師：千葉県立東金病院 院長 平井愛山氏 場所：城西館 高知市上町2丁目5-34 時間：19:00～21:00 お問い合わせ：高知医療センター 副院長 深田順一
13	土	第2回地域医療研修会 内容：「お産の歴史とこれからの産科医療」 講師：高知医療センター 母性診療部長 林 和俊氏 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：14:00～16:00 お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室
22	月	第32回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：17:30～ お問い合わせ：高知医療センター 救命救急センター
24	水	看護局研修会 内容：「急性期病院と地域連携の今(仮)」 講師：高知医療センター 看護部長 大西信子氏 場所：高知医療センター1階 研修室 1, 2 時間：18:00～19:00 対象：看護職員 お問い合わせ：高知医療センター 看護局
25	木	糖尿病を学ぶ会「かなえの会」9月例会 場所：高知医療センター1階 研修室 1, 2 時間：17:30～18:30 お問い合わせ：高知医療センター 副院長 深田順一
26	金	第4回高知DPCセミナー 内容：「DPCに基づいたクリニカルパスの分析」、「2008年度診療報酬改定と今後の病院経営」 講師：特別・特定医療法人愛仁会 千船病院 事務部長 中村達也氏 特別・特定医療法人愛仁会 常務理事・本部長 山門和明氏 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：18:30～20:30 お問い合わせ：高知医療センター 共催：田辺三菱製薬株式会社 三菱化学メディエンス株式会社
27	土	平成20年度高知県栄養士会 第4回生涯学習 内容：「肥満、脂肪肝、そしてNASHメタボリックシンドロームの食事指導」(1単位) 「肥満、脂肪肝、そしてNASHインスリン抵抗性の食事指導」(1単位) 講師：高知大学 医学部消化器内科 准教授 西原利治氏 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：14:00～17:10(13:30～受付) 受講料：1単位 栄養士会員 1,000円 非会員 2,000円 申込みおよびお問い合わせ：9月24日(水)までに葉書、FAX、E-mail等で下記までお申込みください。 (社)高知県栄養士会事務局 〒780-0870 高知市本町4-1-35 TEL/FAX:088(872)9411 E-mail: info@eiyouosa.jp 主催：社団法人 高知県栄養士会

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色ががついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。★マークは院内職員向けの講座となっております。

編集後記

今年度に入って少し時間に余裕が持てるようになり、また勉強を始めました。講義を聴いていると知らないことばかりで、毎回「そうか、そうだったんだ～」と感動しています。またその感動から他のことにも興味がわき、やりたいことや、知りたいことが増えていきます。4年目に入った業務はまだまだ問題点が山積していますが、学んだことをしっかり身に付け業務の改善につなげていきたいと思っています。(地域医療連携室 澤田)



平成20年9月1日発行
にじ 9月号(第35号)
責任者：堀見 忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL: 088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page: <http://www2.khsc.or.jp/>